

《投稿欄》

学会にアマチュアの観測指導の充実を望む——学会が「定款改正を含めて運営方法を検討する」ための運営検討委員会を設けたことに続いて、天文月報に「天文学の進歩および普及についての……意見の発表討論の場として」投稿欄を設けていただいたことに敬意を表し、ひとこと申し上げたいと思います。

本会が60年の歴史を有し「天文学の進歩および普及することをもって目的とする」(定款第4条)以上、私たち天文アマチュアも会員にさせていただくことによって、研究あるいは観測指導の面で十分その恩恵を受けられると期待するのが当然かと思われ(もちろん現在の会費のままでなどという虫のいいことはいけません)。そして地域的な活動をする天文サークル・研究団体・観測グループは、当然別に必要とされましようが、全国的な組織としては本会以外の研究会や学会が誕生する必然的な理由は乏しかったといってもよいでしょう。しかし現実には、日本天文研究会、東亜天文学会がそれぞれ独立した活動をし、しかもそのメンバーの大半は本会と相互に重複しています(最近ではさらに意欲的な第3勢力も現われました)。

こうした状態は、日本特有の体質によることも否定できませんが、天文アマチュアの中でも特に天体観測に興味を持つ人たちが、本会では彼等の望みを達することができないという事実が、上記の諸団体の大きな存在理由だと思ふのです。日本天文学会の肩代りをして、しかも公的支援も受けることなく、個人的な努力と犠牲の上に立ってこれらの研究団体の運営に当たられている方々には深い感謝の念を禁じ得ません。そろそろ学会も現在の姿勢を変えていただく必要があるのではないのでしょうか。

もちろんその前提としては、天文学の発達が進むべき現代において、プロとアマとの開きがこれ以上大きくなならないように、アマチュアの不断の勉強が絶対に必要でしょう。万一にも逆に本会員をプロに限定しようという御意見の方には、日本天文学会に相当すると思われる英国天文協会、科学アカデミー所属全ソ天文測地学会についてのつぎのひとことを差上げたいと思います。

British Astronomical Association—Over 2500 members. Open to all persons interested in Astronomy. The arrangement of members, for the work of observation, in Sections or Departments of observation, under experienced Directors.

All-Union Astronomical and Geodetic Society—42 branches and more than 3000 people. Offers equal rights to astronomers and geodesists, both professional and amateur. To organize and process scientific observations of celestial bodies. (B.A.A. Journal Vol. 74, No. 3 より) (通常会員 木村精二)

学会はアマチュアも無視するな——「アマチュアの観測は役に立たない」ということをしばしば耳にする。そう思っている天文学者がいることも聞く。たしかに、現在アマチュアとプロの差の大きいことは事実だし、活用できるアマチュアの観測が非常にすくないことも私は否定しない。しかし、アマチュアはこのような状態に決して甘んじているわけではない。すくない余暇をさき、身銭をきって文献を買い、不断の努力をつづけながら、みづからの向上につとめていることを忘れてほしくないものである。

大半のアマチュアと「天文学の進歩と普及」を目的とする天文学会とのつながりは、天文月報によるのみといってよいだろう。その月報がアマチュアに対して、普及の役割を十分に果たしていない、という考えがあり、月報の内容に対する不満はかなり大きい。しかし、それは表面的なことであって、学会がアマチュアに対する指導を軽視しているところに問題の本質があると思われる。「月報さえ送っておけばこと足りる」とは思っておられないだろうが、そのように受けとられていることを反省してほしいものである。不満がありながらも退会しないのは、学会にまだ期待をもつからである。

科研費問題に端を発した学会改革論は、それなりに理解できるし、改善を支持する。しかし、アマチュアの存在を無視した方向にはしることを危惧し、会員としての私は、その成り行きを十分注目したい。

具体的な問題で、学会の意向を聞こう。来年のメキシコ、フロリダの日食に、アマチュアの間で観測に行こうという声がかき起している。だが、これには専門家の指導が必要なのだ。基地、器材等の選定、さらには観測後の天文施設の見学折衝など、アマチュアだけでは万全を期しがたい。外誌によれば、アメリカではプロ・アマの共同計画が進みつつあるという。アメリカでできて日本でできないはずはない。「アマチュアには役に立つ観測はできない」という態度でなく、愛情をもって指導していただけないものだろうか。プロにもアマチュアに手伝ってほしい、あるいは、注文したい分野があるはずである。

写真が容易に写せるようになり、また、おそまきながらスペクトル、光電観測もはじまってきたし、電子計算機での軌道計算も手がけだしたアマチュアに、もっと期待してよいのではなからうか。

進歩と普及という二つの目的は、究極的には一致する。進歩は学者の研究によってもたらされるが、普及は将来の進歩にとって不可欠なことだからである。運営検討委員会が発足したそうだが、アマチュアに対する指導強化を忘れないようかさねて注文しておきたい。

(通常会員 斎田 博)

☆ ☆ ☆

本号から投稿欄を設けることにしました。投稿規定については61巻12月号を御覧下さい。